

### Relevant Disclosure

An instrument for assisting the correction of the shape of fingers of the player as he/she practices the piano comprised of a correcting board 12 and a supporting member 14 is described in Japanese Unexamined Utility Model Specification JPU1992-022771. The correcting board 12 is disposed on white keys 11 such that the correcting board 12 is placed approximately perpendicular to the white keys 11. The correcting board 12 is placed at a front edge of a supporting member 14a and covers black keys 13. (Refer to Fig. 2 and 3)

# 公開実用平成 4—22771

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平4-22771

⑬ Int.Cl.<sup>9</sup>

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成4年(1992)2月25日

G 09 B 15/06

6763-2C

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全 頁)

⑮ 考案の名称 ピアノ等練習用指矯正器

⑯ 実 願 平2-63266

⑰ 出 願 平2(1990)6月14日

⑱ 考 案 者 甲 斐 彰 福岡県北九州市小倉南区星和台2丁目10番21号

⑲ 出 願 人 甲 斐 彰 福岡県北九州市小倉南区星和台2丁目10番21号

⑳ 代 理 人 弁理士 中前 富士男

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

ピアノ等練習用指矯正器

### 2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 使用にあっては白鍵上に配置され前面が該白鍵に対して略垂直な指矯正板を、黒鍵上に載置する支持部材の前端に設けてなることを特徴とするピアノ等練習用指矯正器。

(2) 支持部材が前部板体と後部板体からなって、該前部板体と後部板体とをスライド機構で連結して指矯正板を前後方向に位置調整可能とし、しかも上記前部板体を透明体によって構成した請求項第1項記載のピアノ等練習用指矯正器。

(3) 指矯正板の前面が鏡面である請求項第1項または第2項のいずれかに記載のピアノ等練習用指矯正器。

### 3. 考案の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本考案は、ピアノ、オルガン等の鍵盤楽器（以

下、単にピアノ等という)を弾く時の指の形を正しい形に矯正するピアノ等練習用指矯正器に関する。

〔従来の技術〕

ピアノ、オルガン等の鍵盤楽器を弾く時には各指の関節を適度に曲げて弾くのが基本とされており、熟練すれば各指の形が崩れることはないが、ピアノを習い始めたばかりの初心者は第一関節から指が伸びやすく、矯正されないまま練習が進むと上記基本的な指の形に戻すのが困難になる場合がある。

そこで、ピアノ教師は学習者に対して各指の関節を適度に曲げて弾くように厳しく指導しているが、ややもすると指が伸びた状態のまま練習している学習者が多い。

しかし、正しい指の基本を身に付けるには、教師の熱心な指導と、学習者本人の自覚に待つしかなく、従来においては、特別な練習用器具は無いのが実状であった。

〔考案が解決しようとする課題〕

従って、ピアノ教師は練習中の各人の指の動きについて常に注目をしておく必要があるし、学習者にとっても厳しい姿勢が要求されるが、上記のような現状にあっては学習者が上記基本的指の形を習得するまで時間がかかるという問題点があった。

本考案はこのような事情に鑑みてなされたもので、ピアノ等を弾く時の指の基本を従来に比較して短時間のうちに、しかも楽に習得できると共に教師は指導用として、また学習者は練習用として使用できるピアノ等練習用指矯正器を提供することを目的とする。

〔課題を解決するための手段〕

上記目的に沿う請求項第1項記載のピアノ等練習用指矯正器は、使用にあっては白鍵上に配置され前面が該白鍵に対して略垂直な指矯正板を、黒鍵上に載置する支持部材の前端に設けて構成されている。

請求項第2項記載のピアノ等練習用指矯正器は、請求項第1項記載のピアノ等練習用指矯正器に

において、支持部材が前部板体と後部板体からなっていて、該前部板体と後部板体とをスライド機構で連結して指矯正板を前後方向に位置調整可能とし、しかも上記前部板体を透明体によって構成されている。

そして、請求項第3項記載のピアノ等練習用指矯正器は、請求項第1項または第2項記載のピアノ等練習用指矯正器において、指矯正板の前面が鏡面となっている。

ここに、指矯正板とは、前面が平面であれば良く、他の部分に凹凸の彫刻模様など付いた板も該指矯正板に含まれる。

〔作用〕

請求項第1項記載のピアノ等練習用指矯正器においては、白鍵上に位置する略垂直な指矯正板を学習者が絶えず意識するところとなって学習者は常に基本に忠実であろうとするし、練習中に若しこの事を忘れて意識しない場合に指の関節が伸びると指矯正板に指先が当接するので学習者は指のことに気が付いて指の基本に忠実であろうとする

。従って教師の手を借りなくても早期にピアノを弾く時の指形の基本を習得する。

請求項第2項記載のピアノ等練習用指矯正器においては、支持部材が前部板体と後部板体からなっていて、該前部板体と後部板体とをスライド機構で連結して指矯正板を前後方向に位置調整可能とし、しかも上記前部板体を透明体によって構成されているので、学習者の手の大きさ（大人や子供の手の大きさ）に合わせて指矯正板の位置を決めることができると共に、透明体を介して見える黒鍵の位置から白鍵の音階を確認することができる。

請求項第3項記載のピアノ等練習用指矯正器においては、指矯正板の前面が鏡面であるので、弾いている学習者自身の指が同指矯正板に写って本人に見えるので指の基本を習得しようとする学習者自身の意識の高揚に役立つ。

#### 〔実施例〕

続いて、添付した図面を参照しつつ、本考案を具体化した実施例につき説明し、本考案の理解に供する。

第1図、第2図および第3図に示すように本考案の一実施例に係るピアノ等練習用指矯正器10は、使用にあっては白鍵11上に位置させる略垂直な指矯正板12と、黒鍵13上に載置する前部板体14a及び後部板体14bからなる支持部材14とを有して構成されている。以下これらについて詳しく説明する。

上記指矯正板12は、前面が鏡面状になって指の姿が映る真っ黒なアクリル樹脂製板体であり、該指矯正板12は上記支持部材14の前端において同支持部材14の下面および上面から突出する断面T字状に交差するように接着材にて垂直に取付けられている。なお、該指矯正板12の他の取付け手段の一例として、図示しない指矯正板の裏面の略中央部長手方向に図示しない凸条を設け、該凸条の嵌合溝を支持部材の前端両側に互って設け、該嵌合溝に上記凸条を横方向から摺動嵌合させるようにして指矯正板を支持部材の前端に設けることも可能である。そして、ピアノやオルガンの種類によって黒鍵13の高さが異なるが、何れ



の高さであっても該支持部材 1 4 の下面から下方に突出する長さ  $l$  は、黒鍵 1 3 の高さに等しいか若干短くなるように配慮されている。

支持部材 1 4 は、単なる一枚板でも良いが、本実施例では、透明体からなる前部板体 1 4 a と、透明体あるいは非透明体からなる後部板体 1 4 b とよりなり、両板体 1 4 a、1 4 b をスライド機構の一例であるスライド金具 1 5 で接続して該支持部材 1 4 を黒鍵 1 3 の前後方向に長さ調整できるように構成してある。上記前部板体 1 4 a は、材質の一例として透明の亚克力樹脂製の板体を使用され、縦 3 0 mm ~ 5 0 mm (好ましくは 4 0 mm) 程度、横 5 0 0 mm ~ 7 0 0 mm (好ましくは 7 0 0 mm) 程度、厚み 1 2 mm ~ 1 5 mm (好ましくは 1 3 mm) 程度の寸法の板体である。

該板体 1 4 a の左右両端から内側に 5 0 mm 程度のところには、上記スライド金具 1 5 が設けられているが、該スライド金具 1 5 は次の如く構成となっている。該板体 1 4 a の長手方向に直交してステンレス製の管 1 5 a が埋設され、該管 1 5 a

には後記する雄棒 15 b の摺動を固定するネジ 16 の螺合孔 17 が貫通され、かつ前部板体 14 a には、該螺合孔 17 と符合するネジ挿通孔 18 が貫通されている。該ネジ 16 はステンレスの螺旋部とプラスチックの頭部とからなっている。

また上記後部板体 14 b は、材質の一例として透明の亚克力樹脂製の板体を使用されているが、後部板体 14 b は薄いブラウン或いは不透明の板でも良い。寸法としては縦 15 mm ~ 25 mm (好ましくは 20 mm) 程度、横 500 mm ~ 700 mm (好ましくは 700 mm) 程度、厚みは上記前部板体 14 a の厚みより若干薄く (1 ~ 2 mm 程度) して、薄くした分に充当する厚みの板ゴム 19 が同後部板体 14 b の底面に張り付けられ、支持部材 14 全体が黒鍵 13 上を滑らないようにされている。更に該後部板体 14 b の背面にはピアノ本体 20 の表面を傷付けないようにフェルト生地等の柔らかい厚目の布地 21 が張り付けられている。そして、上記前部板体 14 a に埋設されたスライド金具 15 を構成する管 15 a に摺動自在に嵌入する

ステンレス製の雄棒 15 b が固着され、該雄棒 15 b は該後部板体 14 b の両側部における上記管 15 a に対応する位置に 60 mm ~ 80 mm (好ましくは 70 mm) 程度の長さで突出されている。続いて、本考案に係るピアノ等練習用指矯正器 10 の使用方法について説明すると、ピアノ教師または学習者自身が予めスライド金具 15 を摺動調整して適当な長さの所でネジ 16 を締めて固定する。そして、第 2 図のようにピアノ本体 20 の正面に後部板体 14 b の背面に張り付けた布地 21 が当接するようにして該ピアノ等練習用指矯正器 10 の支持部材 14 を黒鍵 13 上に静かに載置する。すると、該ピアノ等練習用指矯正器 10 自体の適度の重さと後部板体 14 b の下面に設けた板ゴム 21 とによって該指矯正器 10 は黒鍵 13 上に安定して固定され、前端の指矯正板 12 が白鍵 11 上の適当位置に 500 mm ~ 700 mm の垂直板として固定される。従って学習者は丁度その前に相対して座り練習曲を弾くことができる。この時学習者自身は目の前にある指矯正板 12 を絶えず意

識することとなり、第3図に示すように各指の関節を曲げて練習することに努力するようになる。ところが、目の前に指矯正板12があるにも拘わらず、指が伸びる場合もあるが、その時には、指先が指矯正板12に当接するので学習者はそのことに気付いて基本に戻ろうとする。

また、練習中の学習者自身の手指が鏡面の指矯正板13に写り、これを見て学習者は「基本に正しく」との意識の高揚が図られる。

〔考案の効果〕

請求項第1項記載のピアノ等練習用指矯正器は以上の説明からも明らかなように、白鍵上に位置させる前面が略垂直な指矯正板を黒鍵上に載置する支持部材の前端に設けたので、該指矯正板によって自然に指を曲げて弾くように訓練され、学習者は指の基本を早く習得するし、教師自身も指導が楽になる。

請求項第2項記載のピアノ等練習用指矯正器においては、板体が黒鍵の前後方向に長さ調整可能なので、学習者の手の大きさに合わせて指矯正板

の位置を白鍵上において位置決めすることができる。

また、支持部材の前部が透明板体なので黒鍵が見えて白鍵の音の位置も分かり易い。

請求項第3項記載のピアノ等練習用指矯正器においては、指矯正板が鏡面であるので弾いている学習者本人の手指が見えて意識の高揚を促す。

#### 4. 図面の簡単な説明

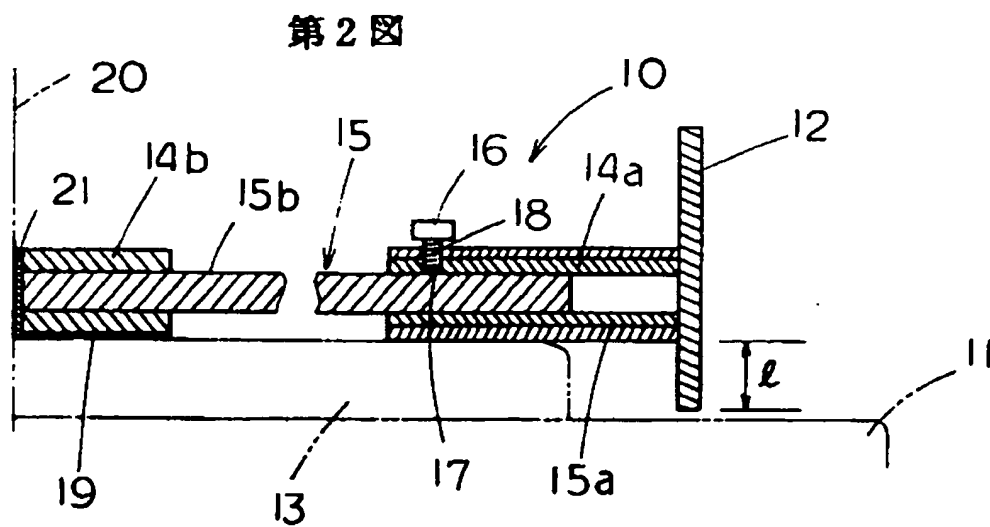
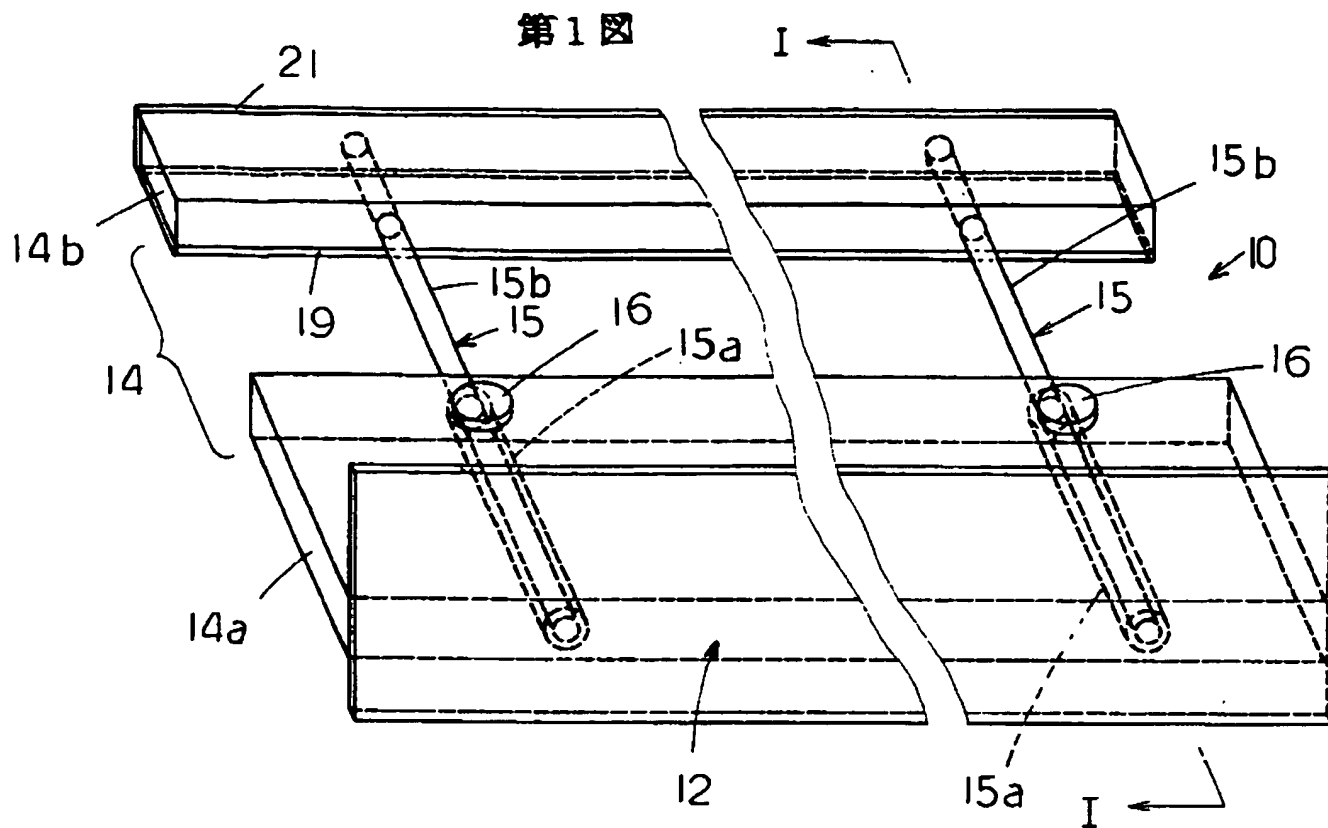
第1図は本考案の一実施例に係るピアノ等練習用指矯正器の中央部分切欠き斜視図、第2図は第1図矢視1-1断面図、第3図は同ピアノ等練習用指矯正器の使用状態を説明する部分斜視図である。

〔符号の説明〕

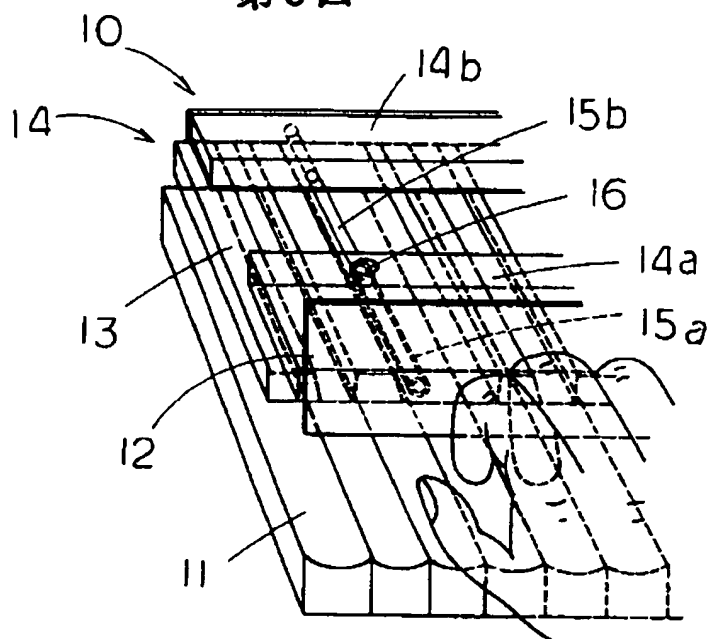
10 ..... ピアノ等練習用指矯正器、11 .....  
白鍵、12 ..... 指矯正板、13 ..... 黒鍵、  
14 ..... 支持部材、14a ..... 前部板体、1  
4b ..... 後部板体、15 ..... スライド金具、  
15a ..... 管、15b ..... 雄棒、16 .....  
ネジ、17 ..... 螺合孔、18 ..... ネジ挿通孔

、 19 ..... 板ゴム、 20 ..... ピアノ本体、 2  
1 ..... 布地、

代理人 弁理士 中前富士男



第3図



876

実用 4-22771

代理人 弁理士 中前富士男